

J E M S Jiho 時報



第62回マウント・ハーモン修養会 特集号

マウント・ハーモンの恵は高く
MT・HARMON・THIRTY

修養会日語部ディレクター

中浜 一郎郎



夫人とご子息と共に

今年はこの修養会に参加する事
にどのような意味があるのだろうか
かという疑問から始まりました。

この疑問は、マウントハーモン修
養会での主の祝福の豊かさに対す
る期待感ではなく、この一週間の
時間と費用を東北地震被災者の皆
さんや支援活動をしているクリス
チャンの機関に働きかけたりする
べきではないのか、という疑問で
す。今こそ一人でも多くの人に福
音を伝えなければなりません。そ
うであれば今年の修養会を特に救
霊のために用いられるよう、また
一人一人のクリスチャンが主の霊
の大地震により大きく揺すぶられ
新たに燃やされて立ち上がれます
ようにと祈り続けて来ました。ま
た、一九九三年の修養会から力の
限りを尽くされてきたJEMS日
語部コーディネーター、稲山昭子
姉が修養会の直前の六月十九日
主の日)に四年半におよぶ癌と

の闘病の末、天国に召されました。
姉妹を知られる方々は悲しみに涙
は見えても、主のご計画が見えな
い思いでした。

しかし、主の祝福の扉は、毎日
毎日開かれていったのです。マウ
ントハーモン修養会日語部の創立
者でもある村上宣道先生が、朝の
メッセージにおいて「つくり変え
られて有用な器に」と題して、新
約聖書に登場するマタイ、ヨハネ、
マルコ、ペテロ、パウロから、そ
れぞれの人物がイエス・キリスト
と出会い、どのような信仰を持ち、
そして有用な器につくり変えられ
ていったかを解き明かしていかれ
ました。金曜日の朝のメッセージ
で 本当に信仰が持てた時とは、
使徒パウロのように主イエス・キ
リストにより砕かれ、倒れた時で
す。」と言われた時、それは今年の
修養会そのものであったことを主
が語って下さいました。聖霊の風
が修養会を導きました。それはか
つて例を見ない事として起きまし
た。講師の先生方がメッセージの
箇所と内容をその場で変更された
のです。それは夜のメッセージ、
分科会のテーマの変更、更には金
曜日夜の最後のメッセージ担当の
村上宣道先生までもが直前に変更
され、「この川の流れる所」と題し
てエゼキエル書、ヨハネの福音書
から、聖霊に導かれるままに語ら
れました。参加者が日々つくり変
えられていったのは言うまでもな

いことです。全日参加者は三十名
で過去最小の数です。日語部存続
はあらゆる意味で不可能と見なけ
ればいけなくなりました。しかし、
日語部の存続を祈り願っている事
を、総主事リック中馬師ご自身が
水曜日の夜に証し者として日語部
の集会で、お証ししてくださいま
した。また、日語部に経済的支援
をして下さる方が起こされたので
す。このマウントハーモン修養会
を愛してやまなかった、稲山昭子
姉の祈りに主が応えられたのです。

アメリカはあの福島第一原発が
臨界爆発の危機に命を投げ出して
制御の対応に残った作業員を
FUKUSHIMASO(FIFTY)」と呼び、
欧米は称賛しました。私はたまし
いもからだも、ともにゲヘナで滅
ぼすことのできるお方を真に恐れ、
また「わたしのところに来なさい」
という御言葉に今だからこそ従っ
て参加された信仰の勇士三十人に
対して Mt. Harmon 301 マウン
トハーモン・サーティ」と尊敬の
意をもって命名しました。また、
尊い奉仕をしてくださった講師の
先生方、各ファミリーのお世話役
の方々、集会を構成する個々の役
割を忠実に果たして下さいました
心よりお礼を申し上げます。主が
大いなる祝福をもって報いて下さ
いますようにお祈り致します。
全ての栄光を我らの主イエス・
キリストに帰し、主の御名をさら
に高く賛美いたします。

マウント・ハーモン修養会証 来し方に思う神様のお守り

岡村フサ子



私は三十五歳の時、神奈川県座間市米軍住宅地の中でアメリカ人婦人宣教師、マーシ師が教える週一度の聖書クラスに参加し始めました。日曜日は神様が定められたのですよ。」とその一言で、神様って粋だね。」と私にとって最も楽しい「遊ぶ日」を造られた神を信じたのです。聖書クラスに行き始めて二週間目でした。実に不純な動機によるスタートです。その時から四十年週一度二時間の聖書の学びを続け、座間教会の情熱溢れる大川従道牧師によって信仰を育てていただきました。現在もDVDが送られ、各家庭集会で用いております。そのような訳で、私の日曜日は「遊びの日」から神様を礼拝する日」と変えられました。初めは、ベテンに掛かったみたい。」と内心ニヤニヤしていましたが、礼拝のメッセージを聞き逃すのはもったいないと感じるようになり、聖書クラスの友人四人と礼拝を守るのが喜びとなっていきました。長女も中学生の時、友人と二人で洗礼を受けました。二人の息子は大学留学で渡米する折、大川師によって受洗しました。子供の頃を振り返ってみると、あの時もあの時もイエス様が私を

見守っていてくださったのだと、六十年が過ぎた今でも胸が熱くなるのです。私が小学三年生のある日、親からは何も知らされずに、学童五十人達と共に上野駅から夜汽車に乗せられました。父が暗いプラットホームから汽車の窓に近づき悲しい眼で話しかけるのを聞き取れないまま汽車が動き始め、次の日の夕方、長野県の上野に着きました。集団学童疎開でした。食べる物も無く、学ぶ事も出来ない片田舎で、寒さと悲しさで、子供達は親恋しさで泣いてばかりの



日々でした。毎日のニュースは東京が爆撃を受け崩壊される報道ばかりでした。母から葉書が届き、大丈夫ですよ。」という言葉に別れの意味が込められている気がして、悲しくて野に飛び出して黄色の野草をつんで、ままごと用の水さしに湧水をすくい入れて、花を挿しました。その時、私は夢中で神様、私のお母さん達を助けてください。」と手を合せて祈りました。両親は宗教にはあまり関心が無く、私が祈った神様は漠然としていましたが、祈りは一生懸命で

した。

私の家があった駒込は全焼し、大勢の死者が出ました。仲良しだった家族の五人が全滅し、隣家は娘二人を失いました。私が大好きだった叔母と甥が死んだのを知るのは終戦後でした。私の母は子供を連れて逃げ出したので、無事でした。父も母も家を失ったことを嘆くことはせず、家族全員無事であったことを一生を通じて感謝の言葉にしていきました。それから遙かに時が過ぎ、神様を信じてから気づいたことは、あの幼い少女の祈りを神様は聞き入れて下さっていたのだと確信するのです。

ハワイ生まれの二世である私の主人は十六才で受洗して、仕事のために日本に来るまでは、アメリカで教会生活を守っていたようです。もっとも私が知り合った頃の主人は、あきれる程のゴルフ狂で、私達が礼拝に出かける時、恥ずかしげに「オエス様によるしく。」と言って、ゴルフに出掛けてしまうのでした。

一九八六年、主人は引退し、早くからアメリカで住む地として定めていたモントレーに移りました。憧れのペブル・ビーチゴルフ場がある所だからです。四十年近くコンピュータの仕事をした後、ゴルフ場で働く夢を叶え、日曜日は礼拝に出席したその足で仕事にかけ出ていきました。週二回はゴルフをして、八十歳近くまで幸せに

仕事を続け、引退したのですが、今年一月、風邪をこじらせて天に召されてゆきました。突然のことでしたので、私は心身共に空っぽでやっと息をしているだけの状態でした。二月にマウント・ハーモンに登録したものの、気持ちは落ちこみ、「元氣を出して。」と声をかけてくださる姉妹達の支えでやっと参加した修養会でした。しかし、修養会において、日ごとに暗さが取り払われ、力と秩序が自分の中に戻されるのを感じました。自覚も無いまま、伊藤夫妻、島田姉と礼拝堂で賛美し、おぼつかない世話役、その上にフラダンスを踊って、「ほやほやの未亡人がすることじゃなかった。」と思いつつ、今はこの証を書いている自分に驚くばかりです。今年に参加者が少ない中にも、中浜師、平田師、藤本姉達の忙しさに目を見張りました。集会ごとに急ぎ働く上にプログラムに合わせてさまざまな願い求めがあり、その度、ご自分の仕事の手を止めて応じる牧師と姉妹達は、メッセージをお取次ぎくださる講師と等しく、神様のスポットライトに輝かされておられるのを見ました。私にとりましてマウント・ハーモンは聖霊の力と信仰の飛躍を受ける山です。特に今年は、私の人生にとって忘れられない感謝の多い聖会となりました。

全ル・エステロ長老教会)
シャローム。



マウント・ハーモン修養会・2011



思い出の記

—稲山昭子さんに捧ぐ

私は勇敢に

たたかい

走るべき

道のりを

走り終え

信仰を守り通しました



中浜師が一頁に記されたように、稲山昭子姉が、四年半の闘病後、去る六月十九日に神様の御許に帰られました。七十歳でした。前号の時報での「近況報告」は、召される十二日前に口述にて著されたものです。九月三日、メモリアル・サーピスが、ウインターズバーク長老教会にて行われ、多くの方々が集いました。

ローリングヒルズカペナント教会で奉仕していた時、私はバイブル・スタディのスマールグループを六つ持っていました。その一つが独身女性の集まりでした。月に一回、稲山さんの家で独身女性が四、五人集まり、食事の後、賛美をして、聖書を学び、祈りの時を持ちました。毎回、夜遅くまでエンジョイしていたのを覚えています。稲山さんの旦那様がいつも横から見て、女性達、一体いつ帰るのだろうか。」と書いていたことでしょうか。稲山さんは、私達に良く結婚のパートナーが与えられるようにと祈っていました。私は独身を卒業して、グループに参加出来なくなりしましたが、今もお互いの信仰と人生のために祈り合った貴重なスマールグループを感謝して

います。おいしい食事をいつも準備してくれた稲山さんありがとう。フェイス・WLA合同メソジスト教会

ベッキー平田師

DEAR のんちゃん。今年はいつアメリカに来ますか？予定を教えてください。」私の為に祈ってください。E.A.のぞみの会」の發起人であり、癌発病後も病と闘いながらLAでの宣教報告会のスケジュールをアレンジしてください。お会いすればいつもメンバーで大笑い。メールには容態について綴られながらも、美人薄命かなあり。でも九月で七十歳ですが。」



にて 賛美大会

毎日、DVDで龍馬伝を見てるのでご機嫌です。福山雅治を見てれば一年なんてあっという間だぜ。」とユーモアたっぷり。

容態が急変され、急きよLAに行く準備の中、召天されたご連絡が入り、到着すると「のぞみの会」の方々が、苦しんでいたのが嘘みたいになりニコリ笑顔で、イエス様に会えたという喜びに満ちていたよ。」と報告してくれました。ああ、最後まで証し人だったなんて本当に稲山さんらしい！」稲山さんからの最後のメールは「福山の

龍馬が死んだ事を認めたくないの。未だに最終回をみていないの。」稲山さん、LAでは共に祈り、私をいつも応援してくださいって有難うございました。龍馬伝の最終回の内容、私が天国に帰った時にきちんと教えてあげますからね。

ドレリハナ(脱北者支援)宣教会宣教師

松本望美師

稲山さんがJEMSで仕事を始められてから、日語部コンピューターのセットアップや使用法を伝授したりさせていただきました。

稲山さんは愛の方でした。彼女自身も病と闘いながら、弱さを覚えておられる友達に食事を作って届けておられました。私の家内が病気の時に食事を作って下さった事を感謝しています。いつも病気の方々に電話をして祈り、たびたび訪問された稲山さんでした。

稲山さんは奉仕の方でした。彼女は一人でJEMS日語部の代表者の責任を負い、時報や集会の計画や連絡をしておられました。稲山さんの働きは南加だけに止まらず、北加の働きにもエネルギーを注いでおられました。南加キリスト教会連合とJEMSの橋わたをして下さいました。

稲山さんを素晴らしい信仰の友として与えて下さり、共に超教派の働きをする事が出来ましたことを神様に感謝しております。稲山さんは神の国建設のために召しだ

されてその働きを全うされました。稲山さんの元気のよい声が天国に響いていることでしょう。また天国で神様からよく奉仕をしたと褒めて頂いていると確信しています。

前南加連合会会長 荒瀬進午

稲山姉がJEMSの日語部、特にマウントハーモン修養会に携わるようになったのは、前主事山元師ご夫妻の送別会で、当時修養会の副主事をしていた夫、直道が隣りに座った稲山姉に「後を引き継いで頂きたい。」と強引に説得して以來的ことでした。その時稲山姉は「絶対無理。出来ない。」と答えられました。主に示されてご奉仕を始められました。それから二十年近く経ちました。初めの数年は伊藤さんのせいで大変な思いをしているのよ。」と度々嘆かれていましたが、いつの間にかそれも聴かれなくなり、修養会を心から愛し日語部のために尽くされています。私達は背後で祈り、応援と助言をさせて頂きました。修養会の反省会と準備会に北加に來られ、牧師先生や責任者とプログラムを組み、連絡を取り合い、姉妹の配慮によって修養会が準備されていきました。修養会前日には、我が家に泊まれ特別なお交わりが出来たことは、今懐かしい思い出です。過去一年は、修養会に参加出来るように祈って下さいと言われていました。今はマウントハーモ

ンより素晴らしい天国の修養会を
楽しまれていと信じています。
サンタクララバレー日系キリスト教会

伊藤寿子

稲山さんに特にかわいがって
ただくようになったのは、三年ほ
ど前からだったでしょうか。賛美
大会のために頭を抱えながら一生
懸命準備する稲山さんの焦り様は、
そばで見えてどこか楽しく、主
イエス様のために多くの教会の
方々（僕達）のために、お仕えす
る姿勢には、イエス様への愛がに
じみ出ていました。僕が一度賛美
大会の手伝いをしたが最後、稲山
さんはその後毎回のように賛美大
会のスタッフとして僕を引っ張り
だしました。そのおかげで、僕は
近くで稲山さんの生き方を見るこ
とができました。癌で苦しんでい
ると思わせない勢いと明るさは、
僕だけでなく多くの人に元気を与
え、またよきキリスト者の模範と
して刺激を与えたことでしょう。
この地上でイエス様を愛し尽くし、
天国でイエス様と一緒に喜びに
溢れ僕達を見守っている稲山さん
の姿が目に見え、心を熱くします。
ガーデン平原バプテスト教会

舟田直人

稲山姉が癌と診断された二〇〇
七年のマウントハーモンにおいて、
「がん苦楽部」は誕生しました。
今年、発足から丸四年を迎えまし

た。稲山姉より三年早く癌になっ
た主人も含め、修養会参加者の
中の癌患者で、互いに祈りあう会
を作りましょう。」と言いだした稲
山姉はまさに産みの親なのです。
最初会員は十人でしたが、稲山姉
は、誰々さんが癌だと聞くと、会
報を送ってください。」と連絡を下
さり、次々と会員が増えていきま
した。現在会員は四十名です。時
間を決めて祈りましょうと言いだ
したのも稲山姉で、「がん苦楽部
金曜三時の祈り」が始まり、ずっ
と続けられています。記事の打ち
合わせなどで、頻りに電話、メー
ルで連絡するようになり、場所が
離れているにもかかわらず、近し
くお交わりをさせていただきました。
稲山姉がキモセラピーを受け
ながらも、JEMSのお仕事をさ
れていた姿は、多くの人を励まし
たと思います。今、会報を読み返
してみると、あの事この事、稲山
姉がマウント・ハーモン修養会を
とつても愛しておられたこと、ま
た祈りの交わりを大切にしておら
れたことが思い起こされます。

がん苦楽部広報 花房真理子

JEMS・バイブル・スタディ
は、鍵和田哲男牧師の指導の下に、
十年前に始まりました。昭子さん
の御宅で月二回楽しい学びの時を
持つことができました。常に十人
前後の姉妹が集い、主の語りかけ
に心を開き、励まし合ってきました

た。肉体を離れて主のみもとに
いる方が良い。」第二コリント
（五・八）皆でよくクリスチャンは
望みがあるから幸せね。」と話した
ものです。でも、こうして病の身
にあろうと肉体を離れていようと、
私は本当に主に喜ばれたいと願っ
ているのよ。」と静かに話していた
昭子さん。彼女が主に与えられた
エネルギー全てを使ってご奉仕し
た主の御許で、今は喜びに満ち溢
れておられることと、私達はかえ
って慰められております。苦難
もまた恵みよ。」と底抜けに明る
い声で言った昭子さん。大きな笑い
声とくっつくかない話し振りにどれ
だけ私達は、元気づけられたこと
でしょう。北米の日本人宣教のた
めに、非常な熱意をもって働かれ
ておられた姿を思い、この地上で
はもう逢えない寂しさを感じます
が、一人一人の心の中に、彼女は
特別な思いを残していかれたこと
を思います。私達も彼女の遺志を
ついで、主に聴き従い、あかし人
として歩みたいと願っております。
JEMSバイブル・スタディ発起人

松田蓉子

【近況報告】

稲山昭子姉の後任として、JEMS
の働きに加えられたことは、
主のご計画の内にあることと確信
し、従順にそして謙遜に仕えてい
きたいと思っております。試行錯
誤の毎日ですが、稲山姉の功績を
見上げ、自身に与えられた賜物が

用いられますように祈っています。
今夏、初めて東北大震災の被災地
を訪れました。実際に支援にあた
ってこられた牧師先生方のシンポ
ジウムに出席し、収穫が多いが
働き手が少ない。だから、収穫の
主に、収穫のために働き手を送っ
てくださいるように祈りなさい。」の
み言葉が与えられました。宣教の
働きを担うJEMS日語部の働き
のために是非、お祈りください。

藤本三奈子



【編集後記】

七人の兄弟姉妹が書かれた稲山
さん思い出記を通して、彼女が全
霊を注いだ主の業と人となり
が皆様の心に少しでも届けられた
なら、幸いです。この時報を編集
していても、やはり淋しさを禁じ
えません。時報に関わり始めて十
数年、互いの魂と魂をこすり合
せるようにして、時報を作りあげ
てきた日々、いつの間にか、か
けがえのないフェイス・メイトと
なっていたことに気づかされてい
ます。闘病の四年半は、まさに神
様に命を支えられ、守られてきた
稲山さんでした。最後の一ヶ月も、
たくさん信仰の友に賑わった脚を
さすってもらって、詩篇を読み、
祈り合い、痛みもなく平安に美し
く、過ごされました。稲山さんが、
常に皆様のお祈りで力を頂けると
言っております。どうか彼女
からの「ありがとう」をお受けと
りください。 西原黎子

JAPAN AFFILIATES

Dr. Akira Hatori-TV Radio Evangelist
 Rev. Nobumichi Murakami-PBA Radio/TV
 Rev. Timothy Himei-Soden, JEMS Japan Coord.
 Rev. Paul Ariga-All Japan Revival Mission
 Rev. Yoshihiro Kishi-Mission 2001
 Rev. Tadao Ogawa-Social Worker
 Yu Eguchi-J-Lodge, Chigasaki
 Nao & Barbara Hanada-Director of AiGJ
 Josh Sasaki-Music, Japan
US AFFILIATES
 Chandler Im-Billy Graham Center
 Ray Sidney, Amy Lachica, John Comfort-
 Here to Praise Ministries
 Rev. Roy & Nana Yamamoto-USA Evangelism

JAPAN MISSIONARIES

Matsue (Abe) & Jim Anzai-Amakusa
 Gayle Gutierrez-Machida
 Michael & Chris Mason-Sakai City
 David Mills-Bridgehome Ministries
 Lily Suzuki-Amakusa
 Nozomi & Kevin West-Nagoya
 Anne Winters-Ochanomachi
JEMS BOARD OF DIRECTORS
 Larry Kuromiya-President
 Tony Kim-Vice President
 David Akiyama-Treasurer,
 Don Yamagishi, Secretary
Members at Large: Stan Date,
 Bob Matsushima, Donna Mukai,
 Greg Oda

JEMS ADMINISTRATION

Rev. Dr. Richard Chuman-Executive Director
 & Minister at Large
 Mary Tabuchi-Office Administrator
 Daichi Tsuruta-Controller
 Megumi Sasaki-Accounting Assistant
 Darryl Wong- Missions Administrator
 Rev. Sam Tonomura-Fund Raising
JAPAN MISSIONS
 Rev. Dr. Richard Chuman-Interim Director
SOUTH AMERICA MISSIONS
 Rev. John Katagi-Director of Mission
 Development
AACF ADVISORY BOARD
 Bruce Chow, Rev. Kevin Hayashida, Larry
 Kuromiya, Ilene Miyahara,
 Don Yamagishi

AACF CAMPUS MINISTRIES OF JEMS

AACF Director-Leadership Team in
 Interim
 Leadership Team-Rev. Melanie Mar
 Chow, Kenji Kobayashi, Rev. Victor
 Quon
AACF CAMPUS MINISTERS
 Dana Chau, David Fong, Arnie Ong
**AACF VOLUNTEER CAMPUS
 MINISTERS**
 Bruce Chow, Evelyn Fan, Nathan
 Fong, Karen Freese, Warren Hino,
 Ed Kwong, Adrian Li, Jonathan Liu,
 Young McCann, Alan Oda,
 Donna Lee Oda, Mark Quan,
 Rev. Stephen Sato, Rev. Carolyn
 Shimabukuro, Jesse Terasaki,
 Anthony Yuen,
MOUNT HERMON YOUTH CAMPS
 Cynthia Tsushima-Coordinator

MUSIC

Lowell E. Sue-Director
NICHIGO
 Minako Fujimoto-Coordinator
**PACIFIC NORTHWEST
 (STATE OF WASHINGTON)**
 Rev. Carolyn Y. Shimabukuro-
 PNW Director
SENIOR & MEN 4 MISSIONS
 Rev. Sam Tonomura-Director
SPORTS AND RECREATION
 Marc Takamine-Director
JEMS JOURNAL
 Emily Okada-Graphic Designer

JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY**948 East Second Street****Los Angeles, CA 90012****213.613.0022, 213.613.0211 FAX****E-Mail: info@jems.org****www.jems.org****RETURN SERVICE REQUESTED**

NON PROFIT

Auto

US POSTAGE PAID

(ADDRESS LABEL)

ジャーナル・時報のEメール配信

JEMS では英語部のジャーナル、日本語部の
時報をE-Mailで配信を致します。

E-mail アドレスを info@jems.org.

までお知らせください。又は下記にメールアドレス
 をご記入の上、同封の封筒にて JEMS
 まで、郵送ください。

名前住所E-mail アドレス

お手数をおかけ致しますが、ご協力お願い致

第15回 賛美大会

日時：2011年10月15日(土) 2:00PM

会場：フェイス合同メソジスト教会

2115 W. 182ND St., Torrance, CA 90504

(ニジャ・トーランス店と同じモール内)

さあ、主に向かって喜び歌おう。詩篇 95 :

第7回 北加賛美大会

日時：2011年11月12日(土)

会場は未定 詳細は JEMS まで。

JEMS: (310) 613-0022

E-mail: minakof@jems.org

藤本

目次

P 1 : マウント・ハーモンの恵は高く

中浜一

郎師

P 2 : 来し方に思う神様のお守り 岡村フサ
コ姉

P 3 : マウント・ハーモン修養会写真集

P 4・P 5 : 稲山姉思い出記